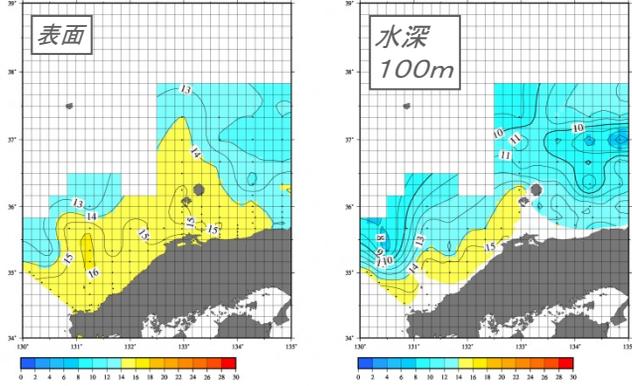


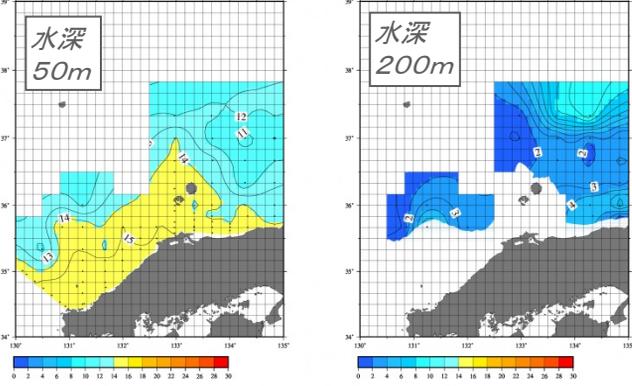
発行 鳥取県水産試験場 (電話:0859-45-4500)

試験船による海洋観測結果(4月上旬)



鳥取県沖と隠岐諸島周辺海域は14～15℃で、平年に比べ1℃高い値となっています。

鳥取県沖と隠岐諸島周辺海域は12～13℃を示し、鳥取県東部沖北緯36°10'、山口県沖35°10'にそれぞれ10℃以下の冷水域があります。



鳥取県沖と隠岐諸島周辺海域は14～15℃を示し、平年に比べ1.3℃高い値となっています。

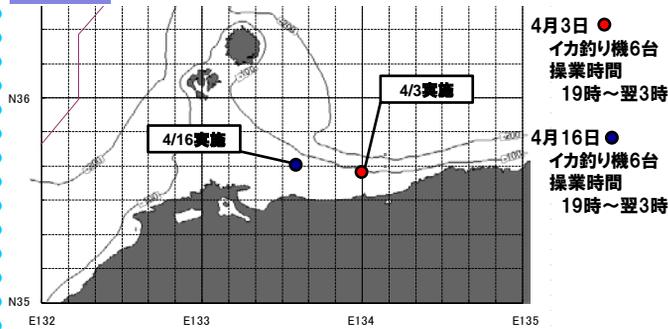
隠岐諸島北東緯37°10'付近に4～8℃の暖水域があります。

**水産試験場**

**平成31年度 スルメイカの漁場探索調査結果**

4月から5月のスルメイカの来遊状況を調査するため、下記の日程で釣獲試験を行いました。その結果を報告いたします。

**操業地点**



4月3日 ●  
イカ釣り機6台  
操業時間  
19時～翌3時

4月16日 ●  
イカ釣り機6台  
操業時間  
19時～翌3時

**結果**

日付	総釣獲尾数(尾)	50m水温(℃)	主な釣獲時刻	主な釣獲サイズ
4月3日	306	14.27	2～3時	30入りサイズ
4月16日	45	14.79	20～21時	25入りサイズ

**4月3日**  
50m水温が前年の同測点に比べ1℃上昇していました(前年12.9℃)。30入りサイズのスルメイカが主に釣獲され、20入りサイズも混獲されました。

**4月16日**  
50m水温が更に上昇していました(前年12.9℃)。4月上旬の探索調査に比べ釣獲尾数が減少し、25入りサイズが主体でした。

**2019年4月のスルメイカの特徴**

調査測点の50m水温が上旬から14℃を上回り、前年に比べ1℃以上高めに推移していました。春季は例年30～バラ入りサイズが主に漁獲されますが、今年は20～25入りサイズのスルメイカが認められ、特異な年だと考えられます。

平成31年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

**西日本ニチモウ株式会社**

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136  
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424  
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

**4月上旬の水塊配置と対馬暖流**

鳥根沖冷水	鳥取県沖北緯36°00'以北に認められ、一部が、山口県北緯35°10'以北に認められます。
山陰・若狭沖冷水	鳥取県東部沖北緯36°10'以北に認められます。
沖合の対馬暖流	主流は鳥根沖冷水に沿って北上し、北緯39°00'付近を流れています。また、大きな反時計回りの流れが、山陰・若狭沖冷水の周辺に認められます。

\*県内の漁獲情報については水産試験場ホームページ(鳥取県水産試験場で検索してください)に詳しく掲載していますが、是非ご利用ください。

**★境港水産事務所からのお知らせ★**

**境港地方卸売市場 1号・陸送上屋6月開場!**



**栽培漁業センター**

**美保湾でヒラメ放流を行いました。**

2014年から美保湾地域栽培漁業推進協議会が事業主体となり、自県生産したヒラメを放流しています。試験放流期間を含めた2007～15年放流群の平均回収率は11.9%と良好な結果(日本海側でも最高水準)を得ています。

平成最後のヒラメ放流は、4月10日に境港(境港マリーナ沖水深10m及びび一文字外側水深11m)で4万尾、佐陀川～日野川沖の水深約10mで1.5万尾の放流を行いました。放流魚のサイズは平均88mmと目安となる85mmを超えましたが、生産尾数は目標の6万尾に届きませんでした。

このためGW明けに追加放流を淀江で行う予定です。ちなみに今年、他県でもヒラメ種苗の生産不調が起こっており、全く生産できていない県もあるくらいですので、(公財)鳥取県栽培漁業協会の生産技術、そして栽培漁業センターの施設はかなり優秀と言えます。

この思いが伝わったのか、放流に参加した漁業者の方々には丁寧に放流していただきました。ありがとうございました。

【お知らせ】とと塾Rが始動します(大阪湾でのサワラ曳縄を勉強してきます)



**潮に夢を** **共和水産株式会社**  
代表取締役 岩田 祐二  
〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地  
TEL:0859-44-7171(代) FAX 0859-42-6530